



南部町立南部中学校 学校だより 第8号

# チーム南部中

令和4年7月19日(火)  
校長 望月和彦

## 古都で仲間とともに過ごした3日間

7月5日(火)から7日(木)まで、3年生が待ちに待っていた2泊3日の修学旅行を実施しました。朝6時に道の駅とみざわで出発式を行い、たくさんのご家族に見送られながら3台のバスで出発しました。西からやってくる台風4号に向かっていくということで、天候を一番に心配していましたが、奈良の法隆寺に到着する頃には雨はすっかりあがり、3日間とも蒸し暑さはありましたが、傘はほとんどささずにすむ幸運に恵まれました。



奈良に到着して食べ放題のカレーライスを食べた後、現地の観光ガイドに説明してもらいながら法隆寺と薬師寺を見学しました。法隆寺では釈迦三尊像や玉虫厨子、シルクロードゆかりのエンタシスの柱など、歴史の教科書や資料集に載っている実物を自分の目で見て感動し、薬師寺ではお坊さんのユニークな説法や「凍れる音楽」と呼ばれる三重塔の美しさなどに、生徒たちは心を惹きつけられていました。奈良



公園では東大寺の阿吽の金剛力士像や大仏の迫力に驚き、その後はグループで春日大社や興福寺の建物などを見学し、名物のシカと戯れる生徒たちの姿も見られました。興福寺国宝館では、一般参拝が終了した後、本校生徒たち貸切でガイドさんの説明を聞きながら、静まりかえる建物の中で国宝の阿修羅像や千手観音像をじっくり味わえる「ナイトミュージアム」を体験することができ、とても素敵な時間になりました。

2日間お世話になった宿舎の「ザ・ロイヤルパークホテル京都梅小路」は、新しい建物で部屋もとても快適でした。感染症対策を施したピュウフェ形式のおいしそうなお料理に、多くの生徒が何回もおかわりしていて、食べ過ぎが心配になるほどでした。



2日目は修学旅行のメインの京都一日自主見学です。黒塗りのジャンボタクシーに乗り込み、事前に学校で立てた計画に従ってグループごとに京都の街を見学してまわりました。見学地ではタクシーの運転手さんが見所を案内して説明してくれたり、撮影スポットで写真を撮ってくれたり、運転手さんとの交流も生徒たちにとって大きな思い出になったようです。多くのグループが金閣寺、銀閣寺、清水寺、伏見稲荷などの有名な観光地をまわって



いましたが、事前学習に興味を持った特別な場所を見学したグループもありました。夕方、宿舎に戻ってきた生徒たちはたくさんのお土産が入った袋を持ちながら、「金閣寺の金色がすごかったです」「伏見稲荷の一番上まで登ってきました」「北野天満宮で合格祈願をしてお守りを買いました」など、自主見学での出来事を自慢げに話してくれました。2日目の最後は、京都タワーの展望台から京都の街並みを眺めました。きちんと暮盤の目になった街並みを見ながら、自主見学で訪れた清水寺や二条城を見つけている生徒もいました。



最終日は「保津川下り」です。天候が悪ければ別メニューになるところでしたが、生徒たちの日頃の行いが良かったおかげか、「台風を心配してたけど良かったね。川の水量もちょうど良い具合だ。」と船頭さんも話していました。船頭さんは、保津川下りの歴史や保津川渓谷の自然を説明しながら、山梨の富士川舟運とのつながりも教えてくれました。サギやキジ、スッポンなどの生き物と出会い、急流では歓声があがり水しぶきに悲鳴を上げる生徒もいれば、「おかわり」と叫んで船頭さんに水をかけてもらう生徒もいました。1時間半ほどの船旅でしたが、船上の涼しさを満喫しながら、川下りという普段できない貴重な体験を楽しむことができました。その後、渡月橋のある嵐山を散策し、昼食を食べて帰路につきました。



この3日間の中で生徒たちは、修学旅行のきまりや社会のマナーをきちんと守り、様々な場所で出会った人々にも気を配りながら行動している様子が見られました。東大寺の南大門の真下には「蹴放し」という大きな柱があり、その柱には中と外を分ける意味があります。たまたま、足の悪い老人が蹴放しをまたげずに困っていると、本校のある生徒が手を貸して助けていたのです。その生徒は「困っている人を見て、いてもたってもいられなくなったので」と話してくれました。また、けがをしている生徒のために、荷物を交替で持ち運ぶ仲間の姿もありました。こんなことがさり気なくできる本校の生徒たちをとっても誇らしく思います。コロナ禍の中でなかなか遠出ができないこの頃ですが、家から遠く離れた古都で、中学校生活を共にしてきた仲間と、寝食を共にしながら過ごした3日間は、かけがえのない大きな宝になったことと思います。

## 「ふるさと探訪」



7月5日(火)1学年では南部町の代表的な文化財や史跡、文化施設等を訪れ、自分たちの町を学ぶ「ふるさと探訪」を実施しました。この行事は、町内中学校3校が統合した翌年より始められ、南部地区に住む生徒たちAグループは富沢地区を、富沢地区に住む生徒たちBグループは南部地区をめぐることで、互いの地域を学ぶ機会となっています。Aグループは「最恩寺仏殿→金山神社のイチョウ→顕本寺のオハツキイチョウ→万沢口留番所跡→万沢宿」をスクールバスで移動しながら見学し、Bグループは「諏訪神社→浄光寺→蒙軒学舎跡地→妙浄寺→新羅神社→南部氏館跡→富士川舟運河岸」を徒歩で見学しました。昨年度に続き、南部町歴史資料室準備委員の佐野正剛先生と前教育長の芦澤和彦先生が、それぞれAグループとBグループの講師として、見学地について丁寧に説明してくれました。

台風が接近し途中から雨も降り始めましたが、生徒たちは講師の説明を一生懸命聴きメモを取っていました。難しい歴史的用語や固有名詞も出てきましたが、生徒たちは帰校後、ChromeBookなどを活用して調べ直していました。身近な地域に、ふるさとを誇れる歴史が隠れていることに、多くの生徒が驚いていました。このような行事を通して、郷土を愛する気持ちを深め、自己の見聞や視野を広げてほしいと思います。(1学年主任 山本佳久)



## 新体力テスト

6月15日、「新体力テスト」を全校で実施しました。あいにくの雨だったので、体育館と柔剣道場を使って、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳びの5種目の測定を行いました。自己記録の更新を目標にみんながんばっていました。50m走、ハンドボール投げ、シャトルランは後日に体育の授業で計測しました。今回の結果を過去と比較したり、全国や県平均と比較することによって、本校生徒の体力面での優れた点、課題を分析し、体力向上に役立てます。



## 栄養教諭による給食指導

本校の給食は旧富河中の北側の給食センターでつくられています。毎月、栄養教諭の河西和美先生が給食の時間に来校し、生徒たちの給食の準備や片付け、食事の様子を見に来ます。そして、短い時間ですが、給食や食事についての知識、栄養素やより良い食生活などについての話をしてくれます。6月21日と28日には、学年ごとに「食事のマナーにはどんなことがあるか。マナーを守ることはなぜ大切か。」という話をいただきました。

